



◆当面する重点作業

1. 高温乾燥が続く場合は、定期的にかん水を行う。降雨が多く停水する場合は排水を行う。
2. シンクイムシの発生が多い場合は防除間隔が開け過ぎないように散布を行う。
3. サンふじの見直し摘果を再度行い、青実果・変形果・小玉をなくす。
4. 炭そ病の発生が見られた場合(病斑部は少しへこむ)は見つけ次第埋め、2次感染を減らす
5. ハダニの発生が散見されるので注意する。

◆第13回薬剤散布について

散布日 月 日

1. 散布時期：8月26日(土)～8月30日(水)
2. 調合量：水1000ℓ 当り

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前/使用回数
展着剤	10ml	—	—
(㊟バリアード顆粒水和剤)	50g	シンクイムシ類	前日/年3回
(㊟ベフラン液剤25)	66ml	黒星病・斑点落葉病 すす斑病・すす点病	前日/年3回

3. 散布量：10a 当り⇒500ℓ 以上

4. 散布上の留意事項

- ①果面の汚れ軽減のため、通常の展着剤に代えて特殊展着剤ササラ 3,000 倍（水 1000 当り 33ml）を使用しても良い。ただしベフラン液剤との混用によりササラの特性である消泡効果は低下し、果面の汚れ防止効果のみとなる。
- ②降雨が多い場合は、通常の展着剤に代えて固着性展着剤アビオンE 1,000 倍（水 1000 当り 100ml）を使用しても良い。
- ③スモモヒメシンクイの発生が見られる園は、バリアード顆粒水和剤 2,000 倍（水 1000 当り 50 g）を加用散布しても良い。また前回散布との間隔が空き過ぎないように注意し丁寧に散布する。
- ④炭そ病の発生が心配される場合は、オーソサイド水和剤 800 倍（水 1000 当り 125 g・収穫前日まで）を加用散布する。
- ⑤ハダニの発生が見られる園は、コロマイト乳剤 1,000 倍（水 1000 当り 100ml）を加用散布する。
 なお、通常の展着剤に代えて特殊展着剤スカッシュ 1,000 倍（水 1000 当り 100ml）を使用しても良い。
 また果面の汚れ軽減にもなる。
 定期防除で今年使用しなかったダニ剤を使用する場合は、果樹技術員に相談する。
- ⑥ハダニ類の発生が見られるが、ダニ剤を使い切ってしまった場合、年間何回でも使用可能なアカリタッチ乳剤 1,000 倍（水 1000ℓ に 100ml・収穫前日まで）を特別散布しても良い。
 散布から 1 週間ほどで再び成虫が発生し始めるため、発生状況を確認しながら繰り返し使用するとより効果的である。物理的作用による効果の為、抵抗性は発達しない。なお卵には効果がない。ダニ剤を散布する 2～3 日前にアカリタッチ乳剤を使用する事も有効である。
 高温時の散布は控える。展着剤は使用しない。単剤での散布を基本として使用する（薬害防止）
- ⑦収穫中の品種には飛散しないようにする。

《栽培に関する問合せ》

寺澤（情報担当・篠ノ井西部・信田）：080-1188-5229／外谷（篠ノ井東部）：080-8048-6602

松橋（松代）：090-4816-6297／佐藤（川中島）：090-7179-9866

根津（更北）080-1203-8576／松澤（若穂）080-1191-5166

吉澤（全域・編集担当）：090-2543-0365／営農販売部（本所）：292-0930

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）

※センター繁忙期になるため、電話をとれない場合がありますが、ご了承下さい。

伊藤（篠ノ井東部）080-2239-6816／松坂（篠ノ井西部）080-1188-413

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課：299-3311